

JAXA 様と「新電力エキスポ 2015」に出展しました！

日時：2015年1月28日～30日

2003年5月、JAXA（宇宙航空研究開発機構）は、小惑星「イトカワ」を探索するために科学衛星「はやぶさ」を打ち上げました。「はやぶさ」は、自前の太陽光パネルで発電した電気を、イオンエンジンやJAXAとの通信、絶対零度のなかでの装置保温、などに有効に配分することで、7年間の歳月をかけて地球に戻ってきました。

JAXAは、この「はやぶさ」に使われた「限られた電力を有効利用する方法」を、民間に広く普及させようとする取り組みを始めています。
この取り組みに、アドテックスの制御技術が使われます。



展示会風景